

平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 9 月会議 会議録 (3 日目)

(平成 30 年 9 月 6 日 午後 1 時 00 分)

●議長 (小林幸雄) それでは、会議を再開いたします。

通告の 3 湊喜一議員。

- 1 SDG s を活用について
- 2 乳幼児健診における小児がんの早期発見について
- 3 美術大学との提携について

議席番号 10 番・湊喜一議員。

◆10 番 (湊 喜一) 議席番号 10 番・湊喜一です。通告に従い質問をさせていただきます。まず 1 点目ですが、「SDG s について」とまたカタカナの言葉を言っているのと、この英語の略なのですがその英語先ほども言って欲しいといわれたんですけど舌を嚙んで滑舌も悪いのでちょっと省略させていただきます。これ日本語で訳しますと「持続可能な開発目標」。「誰一人取り残さない」という理念を掲げて 2015 年 9 月国連で採択された SDG s 複数形で G はゴールのことなのですが、ゴールがいっぱいあるという、そういう略語でございます。持続可能な世界を次世代に受け継いでいくことを目指して 2030 年までに達成する 17 の目標、169 のターゲット、230 の指標を示して、すでに世界規模で取り組みが始まっております。先日公明党の山口代表が SDG s 推進委員会外交部合同会議で、第 1 回ジャパン SDG s アワードの受賞者、企業、団体の意見交換会が行われた席上、代表から「誰一人取り残さない」との理念は公明党が長年掲げてきた生命、生活、生存を最大尊重する人間主義の理念と合致する。SDG s が国際社会の隅々まで浸透するよう努力、推進していくと挨拶されたことについて、我々もそれでは各自治体にそういうのを広めていこうということで、今回一般質問に入れさせていただきました。この時にジャパン SDG s アワード総理大臣賞を受賞した北海道の下川町では社会動態減少が緩和され、個人住民税収が 16.1 パーセント増などの結果を得ており、持続可能な地域社会を実現できたと、その成果を示しているという評価がされております。世界を見ますと北米やヨーロッパではこの SDG s に取り組む企業ですね、一般企業これが非常に高く評価されて未来への投資であり必須であるとされております。この近辺で富山市では、施策の中でこの SDG s にあたるものについて、17 のどの目標に該当するかマークを添付し、自治体として積極的に取り組んでいる姿勢を明確にして、学校教育では今回の学習指導要領の改正で持続可能な社会の作り手の育成が明記され、SDG s を積極的に推進することになりました。通告に教育長の名前を入れるのを忘れたのでこの部分は次回に回させていただきたいと思っておりますので、通告予告でございますがよろしくお願いたします。東京都江東区のやながわと読むんですかね、漢数字の八に名前、ネームですね名前の川、その小学校が先進校として名前を挙げております。このように各地で取り組みが進んでおりますが、長野県では総合 5 か年計画改定時に SDG

s を意識し明記してSDG s 未来都市とし、しあわせ信州創造プラン 2.0 にはマークをつけ、学びと自治による自立分散型社会の形成として総務省に先進県として選定されております。信濃町では 2030 年に向けた第六次長期振興計画を策定中であります。このSDG s の理念を明記し、計画の中に生かしていく必要があると思うんですが、町長の見解をお聞きしたいと思います。SDG s ってどんなものなのかというのはやっぱり説明しないと駄目なので、大体ざっとしたところを説明させていただきますが、日本ではこの持続可能な開発目標と訳されていて、国連の持続可能な開発サミットで、世界 193 カ国が合意し、2015 年に達成期限を迎えたミレニアム開発目標MDG s の後継として採択され、地球環境や気候変動に配慮しながら持続可能な暮らしや社会を営むための、世界各国の政府や自治体、非政府組織、非営利団体だけでなく、民間企業や個人などにも共通した目標であるとされています。発行は 2016 年 1 月、「誰一人取り残さない」をスローガンに 1 番目に「貧困をゼロに」、2 番目に「飢餓の根絶」、3 番目に「すべての人に健康と福祉を」、4 に「質の高い教育をみんなに」、5 に「ジェンダー平等を実現しよう」、6 に「安全な水とトイレを世界に」、7 に「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、8 に「働きがいも経済成長も」、9 に「産業と技術革新の基盤をつくろう」、10 に「人や国の不平等をなくそう」、11 に「住み続けられるまちづくりを」、12 に「つくる責任つかう責任」、13 に「気候変動に具体的な対策を」、14 に「海の豊かさを守ろう」、15 に「陸の豊かさも守ろう」、16 に「平和と公正をすべての人に」、17 として「パートナーシップで目標を達成しよう」と、この 17 の目標と、各目標を実現するための 169 のターゲットからなる、以前からありましたMDG s が途上国の貧困、飢餓の撲滅や教育の確保に主眼を置いていたのに対して、このSDG s はすべての国、すべての地域を対象として、このMDG s の目標に加えて経済危機、気候変動、伝染病、難民や紛争などの対処に力を置いていると。ただし、目標には法的拘束力はなく、達成状況を図る方法も各国に、その国に任されている。日本は 2016 年に首相を本部長とするSDG s 推進本部を設置し、民間企業や各種団体、消費者とともに連携した実施方針を打ち出している。ベルデスマン財団というのがあるんですが、その財団がまとめた世界 149 カ国のSDG s 達成ランキング 2016 年 7 月の時点ですが、北欧スウェーデン、デンマーク、ノルウェーなどの北欧諸国が上位を占め、日本は 18 位となっている。これが今の国際情勢とSDG s のざっとした説明なのですが、長野県では地方創生に向けた自治体SDG s 推進事業として、さきほど紹介しましたSDG s 未来都市となっており、しあわせ信州創造プラン。実はこの後部は、この春 29 年度に終わってしまっているのですよね。ご存知だとは思いますが。これに手を挙げていけば先進自治体になったのでしょうか。今まさに信濃町はこの計画を策定中ですのでね、ぜひともこのマークをつけたSDG s にのっとった提案、策定計画を作っていただきたいなと思って今回の一般質問にさせていただきました。ちなみに長野県ではご存知だと思うのですがSDG s 未来都市として各マークをつけた学びと自治の力による自立分散型社会の形成という形で、このしあわせ信州創造プラン 2.0 に組み込んでおります。これにならっていただいてぜひとも今回の計画策定ですね、2030 年度までの信濃町の長期振興計画の中に盛り込んでいただきたいと思うんですが町長の見解をお聞きいたします。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) はい、湊議員さんからのご質問ですがSDGsということで縷々、今、湊議員さんからもお話を頂いたところでございます。大変申し訳ありません。私もこのSDGsという、このことについてはあまり知らなかったものですから、ご質問にあたって概要についてですね、調べさせていただいたわけでございます。正直に申し上げます。そのような中で2015年の9月、国連のサミットで採択されて、2016年から2030年のこの15年間で達成するために掲げた目標だということで、それぞれ17の具体的な目標と今湊議員さんが言われました。そしてまた、さらに細かな169のターゲットからなっているということでございます。ご案内のように今長野県もですね、ご紹介ありましたように国が選定したSDGsの未来都市として選定をされているということでございます。また、長野県をはじめ29の自治体が選定をされているというふうにも承知をしているわけでございます。そこで、この中身的に今17の目標個別にご紹介があったわけではありますが、ほとんどと申しますか、多くはこの日本という国の中ではそれぞれクリア出来ているっていう話はないかも知れませんが、比較的経済成長の著しい国においてはこういうことが成されているんじゃないかなというふうに思いますが、ご案内の通り193か国というような国連加盟の全体での掲げた目標でございます。今、長期振興計画とのすり合わせの中では、こういうことを対応したらどうかということでございます。現状、それぞれ長期振興計画を策定中ではありますが、現状の把握とそして、将来予測を考えながら、アンケート調査、団体のリーダーなどのインタビュー、そしてワークショップ、先日も行われましたけれども、通じて得られた町民の意見等を反映して、計画として進めていくかということに取り組んでいるわけでございます。今、お話しありましたSDGsの内容そのものが直結して、今考えてはいないわけではありますが、可能であれば、この長期振興計画の中で分類をしつつ、また対応していくということも可能なかなというふうに思っております。大きな目標については、地球上の誰一人として取り残さないという合言葉と申しますか、誓いでございますので極めて重要なサミットの採択の案件かなというふうに思いますので。ただ私ども地方自治体として、具体的にどう取り組みが出来るのかということのをこれからさらに深めて、出来ることは取り組んでいくということをお願いしたいなというふうに思います。以上です。

●議長 (小林幸雄) 湊議員。

◆10番 (湊 喜一) はい、17すべてをターゲットにする必要はないと私も思っております。長野県ですら8プラス1、17のうちの8つプラス1、最後の17のパートナーシップを入れているだけなので、取り込める部分だけを取り込んでいけばいいと思います。長野県がやっているのが「誰もが学べる環境作り」、信州子供カフェの普及拡大と信州タウンキャンパス構想の実現。それからもう1つが「地域内経済循環の促進」、エシカル消費の促進、いわゆる地消地産というものです、それから再生可能エネルギー100

パーセント地域の実現。もう 1 つが「快適な健康長寿のまち・むらづくり」、自家用車に頼らない地域づくり、公共交通の活性化なんかそうでしょうね、省エネ建設による断熱性の向上促進、後もう 1 つが「豊富な自然エネルギー資源を活かしたエネルギー自立・分散型モデル地域の形成」、これが各ターゲット、目標となる 17 のうちの 2 つ 3 つをクリアしているので、8 プラス 1 のマークがついている。そういうような形でいいと思うんで、今信濃町がやっている健康に対しては結構色んなことをやっている、例えば学校で小中学校で今取り組んでいることがこれに当てはまる部分が多々あると思われます。そういうところにこのマークをつけて SDG s を推進しているというような形でやっていくと内外に発信していくことによって評価が上がってくる、その成果をまた発表していくということが、SDG s に日本が達成していつているという部分、ゴールを決めてそこへ向かって皆さんの力を合わせていく、そういうような形でやっていただきたいと思いますので、ぜひとも地域振興計画にその辺のところを、今からでも遅くはありませんので、計画の途中ですので策定中にここへ割り込むという部分でそういうことが出来るんじゃないかなと思いますので、この辺は一番の担当者はどこになるのかな、総務課になるのかな、課長の意識次第でこういうことが出来るかも分からないので、ひとつよろしくお聞きしたいのですが、課長の答弁お聞きしたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 高橋総務課長。

■総務課長 (高橋博司) はい、長期振興計画の策定の取りまとめを総務課でしておりますので、私からお答えをさせていただきたいと思います。長期振興計画につきましては、10 年間の基本構想部分、また、5 年間の前期の基本計画部分の策定を今年度から来年度にかけて策定を進めております。現在基礎調査、また、先ほど町長からもお話しをさせていただきましたがアンケート調査、ワークショップなどでの住民の皆さんの意見をいただく。また、各種団体のリーダーの方へのインタビュー等をしているところでございまして、これを基に基本構想という形でまとめていくということで進めております。SDG s につきましてはどちらかというとも基本計画部分に関わってくる部分が大きいかなと思いますけれども、この基本構想、基本計画につきましても私ども事務局の方で勝手に内容を変えるということとか、こういう内容を入れてくれということを決めることはできませんので、このような情報については審議会の委員さん、また、コンサルタントの方にも話をしてまいりたいと思いますが、現時点で必ずこれが長野県のようにそれぞれの計画に紐付けて策定をしてまいりますということはちょっと申し上げられないんですが、そのような形では取り組んでまいりたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 湊議員。

◆10 番 (湊 喜一) はい、ぜひともそういうことをやっていただきたい。この SDG s のこの選定をされると多少なりともお駄賃といいますか、補助金がつくという話も聞いておりますのでね、ぜひとも取り組んでいただきたいと思います。これをぜひともねこ

のポスターみたいなものがありますのでね、ぜひこういうようなの掲げて、特に職員そういう所に掲げていただいて、何をやっているんだということを理解していただきたいと思いますのでね、よろしくお願ひしまして次の質問に移りたいと思います。通告いたしましたこの、「乳幼児健診における小児がんの早期発見」というところでありますが、小児がんというのは、今、少子化で非常にこう子供の数が少ないからがんの数少ないので見過ごされている部分があると思うのですけれども、この子供の死亡原因の第1位はやはり小児がんなんですよね。年間発症数が少ないために多くの医療機関では小児がんに対する医療経験が乏しく、適切な医療の受診の遅れなどによって重症化してしまっている場合が多い、その為に早期発見に向けた住民への啓発とか、検診が大事になってくると思います。また、今回この一般質問に入れたのは、この中でも網膜芽細胞腫という病気があるんですけれども、この母親が見て分かるような、発見できるような病気なのです、目の病気、目のがんなんですけれども、白色瞳孔になったり斜視になっているような病状が現れたときに、そういう小児がんの目のがんが発症している場合がある。そういうところでぜひとも乳幼児の健診の中にチェックの中に、お医者さんがチェック、乳幼児検診されますよね、その時に健診の目の項目の中に白色瞳孔を追加してはいかがでしょうかという質問であります。目のがんなので、重症化してしまうと目を摘出しないと駄目なんですけれども、早期発見の場合は温存といいますか、目を残して治療することができる。国立がんセンターの小児がんの情報ページを見ますと、16 ページにわたって縷々書いてあるんですけれども、これ見てたらいろいろな治療の仕方があるのだなと思っているのですが、その小児がんに対する専門の病院も少ないですし、医師も少ないというところから、国の方は去年より 15 箇所ほど拠点病院を指定して質の高い医療を提供しようとしておりますけれども、特にその相談体制です、こういう状況が起こっているんだけれどもどうなんだろうというような、母親に寄り添うようなそういう医師・病院が必要じゃないかなと思っております。それよりもこういう我々のような小さな自治体の中では、乳幼児健診のときにこの小児がんを早期発見をすることによって、早く手を打つと、ようするに眼球、目を温存することができると書いておりますので、特にこの網膜芽細胞腫という目のがんは、出生時 1 万 5000 人から 1 万 6000 人に 1 人というような発症なんです、非常に遺伝によって発症する場合があります。ただ、家族が子供の目の異常に気がついて早期発見する場合がありますので、ですから健診のときに白色瞳孔というものを健診の項目に追加していただきたいのですが、その辺のところ、町はそういうことに踏み込んでいただけるとかどうかお聞きしたいと思います。

●議長（小林幸雄） 松木住民福祉課長。

■住民福祉課長（松木哲也） 今、乳幼児健診の体制について、まず申し上げたいと思います。乳児健診の検査項目というのは、ご存知かも知れませんが母子保健法に定められておまして、その規則の中で定められたものを検診として実施をしております。さまざまな検査項目がございますが、身体の発育状況に始まりまして、各種病気の有無、また、身体の異常、精神発達の状況などの項目がありまして、検診を受ける乳幼児の年齢

ですけれども 4 ヶ月児、7 ヶ月児、10 ヶ月児、1 歳半、それから 3 歳児の 5 回の乳幼児健診というかたちになっております。この際に小児科医の視診、触診などの診察をしていますので、直接そういった中でお母さんから異常とか、機会があればそこについてはそういった診察はできますが、なかなか器具がそこにあるわけではありませんで、具体的な検査になりますとまた別なそういった機材のあるところで行わなければならないかと思えます。それで視覚の検査、目の検査につきましては、3 歳 6 ヶ月児の視覚検査というものがあまして、信越病院の眼科を訪れていただいて、そちらで専門職である視能訓練士によりまして、視力、眼位検査、眼球運動検査など行い、斜視など目のそういった異常を確認ができる状況になっております。この際にもし、異常等が認められるような場合には、専門医での精密検査などの受診勧奨を行うということです。それで今の白色瞳孔の検査の追加ということでございますけれども、先ほどの 3 歳 6 ヶ月児には視覚検査ございますけれども、それ以外の場合は視診とか、なんらかの異常がなければ実際の検査機器を利用した健診が必要となってくるので、その段階ではなかなか健診項目として追加をして十分な検査ができるということにはならないというので、今の段階でそれを検査項目として追加するのは難しい状況だというふうに考えております。

●議長 (小林幸雄) 湊議員。

◆10 番 (湊 喜一) はい。この 3 歳 6 ヶ月児ですか、3 歳半ですね、3 歳半のときに視力検査があると。ぜひともそのところで発見していただきたいと思うんですが、多分これでできるのだと思えます。母親が見て異常に気がついて早期発見される場合が多いと言われておりますのでね、ぜひともそのところで発見はしていただきたいのですが、できれば 1 歳児くらいの間でそういうことも合わせてやっていただければ、さらに早期発見になると思うので、重症化する前に発見することが大事だと思いますので、その辺の仕組みづくり、どういう検査が必要なのか私は分かりません。ぜひともその辺、研究していただいて、できる方向で検討していただきたいと思えます。将来視力を失ってしまうことのないような方策をとる必要はあると思えますのでね、早期発見で今のこの治療を見ているといろいろな方策で視力を残そう、目を残そうという治療が今非常に進んでいると思えます。そういうところで一番大事なのは、母親なり親族というか両親が一番大変だと思いますのでね、その辺の精神的なケアも大事だと思いますので、早期発見することによってそういう家族全体を守ることができるというところからも、ぜひとも乳幼児健診という、小児がんというのはなかなか発見しづらくて治療も大変だと。大人と違って薬も大人みたいに強い薬は出せないという部分もありますし、手術も大変だというのは聞いておりますのでね、早期発見に努力をしていただきたいと思えますので、ぜひともその辺の取り組みをお願いしたいと思います。今日は早く終わるつもりをしていたので、3 番目に移りたいと思えます。これは近隣の自治体の議員からこういうお話しをいただきまして、公明党の議員じゃない議員ですけれども、こういうことやってみたらどうというのを、その村でやったのですけれどもなかなか進まないという話をされて、その話もらっていいですかとかたちで今回、一般質問の中に入れさせていた

だきました。3番目の美術大学との提携についてであります。信濃町は音楽大学と提携し、町の活性化に繋がっていると私は思っておりますが、美術系の大学と提携して町の活性化というのを図っていけばひとつ面白い事が出来るんじゃないかなと思っております。提携の条件として、この通告内容の説明の中にあるのですが、美術大学の学生の作品コンクールを企画して、その優秀作品を町が買い上げる、美術大学の学生の優秀作品は将来その学生が大物、大家になる可能性も無きにしも非ずであります。作品が投資に繋がることも考えられます。まして美術大学のコンクールをしますと、その学生は、勿論その家族も訪れると思しますので、信濃町は童話の森ギャラリーという絵を展示する場所、保管する場所もあります。ぜひともその童話の森ギャラリーの入館者数増にも繋がると思しますので、この辺のところ癒しの森事業の提携として提案をさせていただきたいと思っております。私のところもペンションをやっております、結構絵の先生が来られております。その絵の先生方の話を聞いておりますと、ここにぜひとも住みたいと、365日毎日違う絵が描ける、美術的なのかそういう自然の中に自分の身を置くことによって感性が研ぎ澄まされ、自分でも絵が描きたくなる、毎日毎日描きたくなる、毎日違うような絵が描けるというような話をうちに来ている美術家、号何万というかたちで売れるような先生方はそういうお話をされておりますので、ぜひとも美術大学、癒しの森を介在してこういう美術大学との提携で町の活性化を図っていただきたいと提案をさせていただきますが、この辺のところ見解をお願いいたします。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） それぞれ地域地域によっては、大学とさまざまな連携をやって産業育成のための連携だとかあるわけではありますが、今、信濃町も湊議員さんにもコンサート等々で大変ご苦労頂いているのですが、音楽では東京音大との連携といいますか、コンサートも実施したりしているわけであります。また、ある面ではこの今年3回目でしたが、大学駅伝もある面ではそれぞれの大学との連携かなというふうに、これはスポーツ的な分野であります。それからもう一つは、今インターシップで、武蔵野大学の学生さんが今年度もこの信濃町の中でそういったことで行動されているというようなことでもあります。今、美術大学とのそういったことではどうかということですが、なかなか今の時点で私どもから積極的にこうしてみましようとか、というような段階にあるのかどうなのかということも、ちょっとこれも慎重に判断しなきゃいけないというふうに思います。具体的にどう行動としてお互いにその目的を共有できるかどうか、そんなことも一番大事な要素になってくるとはならないかなというふうに思いますが、いろいろな中で機会があれば、その美術のみならず、様々な大学の皆さん方との連携というのは、私も否定するわけではございませんので、今の段階で積極的に美術大学と云々ということを重ねて申し上げるようですが、積極的にという意味ではちょっといかがなものかなというふうな状況かなというふうに思っております。

●議長（小林幸雄） 湊議員。

◆10 番 (湊 喜一) はい。積極的にはなかなか踏み切れないというのは、切り口がないからかも分からないと思います。そういう意味では、癒しの森事業というのはいろいろな企業を訪問して提携を結んでおられる、そういう状況から美術大学もこのターゲットという言い方はおかしいでしょうけど、話の切り口になっていくんじゃないかなと思っているのですけれども、ぜひとも先生をご招待していただいて、信濃町のこの自然の中に身をおいていただいてたっぷり癒していただいて自分の美的完成を研ぎ澄ましていただくことが、ひとつの切り口になるんじゃないかなと思うんですけれども、担当課としてはいかがでしょう。

●議長 (小林幸雄) 高橋総務課長。

■総務課長 (高橋博司) 直接の交流を担当している部分だけではありませんけれども、先ほど町長も申し上げましたが、東京音楽大学との交流につきましては、やはり民間の皆さん、また、そういう交流といいますか、そういうものを基本ベースにしながら進めてきているところであります。また、武蔵野大学のインターンシップの受け入れにつきましても武蔵野大学の先生が町内に山荘を持っておられまして、定期的にゼミの学生を連れてきていただいて農家だとか町民の皆さんとの交流を進めてきたというベースが実はございます。そういうことで申し上げますと、美術大学はじめ各種大学の連携というものにつきまして行政と学校だけではなくて、民間の盛り上がりというものも必要なのかなと思いますので、そういうものも、また、理事者に判断をしていただく中で取り組んでまいりたいと考えております。

●議長 (小林幸雄) 湊議員。

◆10 番 (湊 喜一) 慎重なお答えであります。ぜひともこれコンクールを開いてその優秀作品を買い上げるというのは突飛な話だと思いますので、とっつきが悪いかも分からないのですが、絵の先生たちがうちに宿泊するようになったのは自分が開いている絵画教室の生徒さんを写生に連れてくる、そういう絵画教室が発端であります。そういう教室を前、夏に開いていて生徒さんたち、年齢の高い生徒さんたちですが、そういう方たちを連れて写生に来て、夜にはその日描いた写生を手直ししながら評価していく、そういうことをやりながら先生は自分も絵を描いて、良い作品は我が家に置いていただいた、その先生の写生だから大事にはしておりますが、後で値段を聞いてびっくりというような高価な絵でもあります。写生なので作品としての価値はないのですが、その先生がもっと大家になれば最終的には値段が上がるのじゃないかなと思っております。そういうことがあるということで、この話を聞いた時にこれはぜひとも信濃町も美術大学と提携をすればそういう宿泊も増え、活性化にも繋がる、信濃町は結構絵を書く方が多いのでそういう方たちに対する刺激にもなります。町全体の活性化にも繋がると思いますのでね、ぜひこの切り口を探していただいて美術大学と提携するというのを模索

平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 9 月会議 会議録 (3 日目)

していただきたいと思うのですけれども、癒しの森の担当係ではどういう考えがあるのでしょうか、お聞きしたいと思います。

● 議長 (小林幸雄) 小林産業観光課長。

■産業観光課長 (小林義之) 東京音大さんとは、8年以上コンサートをやってもらっているわけですが、この事業につきましては東京音大さんが野尻湖畔に寮があったというような経過もあったり、信濃町が行っている癒しの森事業に賛同いただく中で、地域の活性化に協力をしていきたいという経過があったものと思っておりますので、そこら辺で美術大学の皆さんと、どのような形で地域の活性化に繋げていくかという部分も、どういうふうなかたちでやっていけばいいのか、また、そういう協力体制をどのようなかたちでやればいいのか、また、先ほどからも言っていますが、そのきっかけ作りと言うのはなかなか癒しの森の場合ですと、癒しの森のサロンですとか、そういう企業から企業への繋がりを持っている部分もございますので、どのようなかたちできっかけを作ればいいのか、どのようなかたちで大学が信濃町に協力体制を作っていくのかということや癒しの森という部分でやるのか、その辺の事業構築というかその協力体制をどういうふうにするのかというのは、今後検討しながら進めていかなければならないと思っております。

●議長 (小林幸雄) 湊議員。

◆10 番 (湊 喜一) やはり慎重なお答えですが、大学にぜひともコネクションのある方たちを探して美術系の大学、必ずしも大学とは限らないと思っております。美術系の専門学校もあると思っております。そういうところにコネクションを探していただいて、こういういろいろな町は対応ができるということをお話していただいて、写生大会から始まってコンクールに繋げていくようなそういうところでこの活性化、信濃町の。信濃町はそういう意味では文化の香る町であります。古くから文人、画家、音楽家たくさん来ておられます。そういう意味では信濃町にいる限り芸術的な感性が増築されるのか、増幅されるのか、よくわからないのですけれども、そういう土地柄だと思われまますので、そういうところを大いにアピールしていただくためにも、スポーツだけではなく音楽だけではなく、この美術の世界にもターゲットを見つけてぜひとも提携、招致というかどういふかたちがいいのかまだ私も姿は分かりませんが、美術大学との交流みたいなのを模索して、構築していただきたいという願望を持ちまして、町に努力をしていただくということをお願いいたしまして私の一般質問を終わりたいと思っております。

●議長 (小林幸雄) 以上で湊喜一議員の一般質問を終わります。

この際 2 時まで暫時休憩と致します。

(午後 1 時 45 分)